



「経済」は、「経国済民」…国を治め民を救うの略。つまり、民を豊かにすることが経済の要諦。

マックス・ウェバーは、「経済発展の根幹に人間的な道徳」を求めた。

洪沢栄一は、「経済道徳合一説」「論語とそろばん」を説き、経営に儒学の精神を取り入れようとした。

ドラッカーは、「資本の論理に人間が置き去りにされつつある」と、近時の社会風潮に警告を発す。

明治時代以降に起業した経営者の多くは、「国家のため、社会のため」という気概に燃えていました。

今、アメリカ発の金融危機が、伝染病のごとく世界経済を襲い、混迷を深めている。

「事業は人なり」…誰も異論がない。しかし、本当にそうなのだろうか？

「事業は人なり」とは、人によって事業の盛衰が左右される、という意味。

同時に、「事業は人のためにある」という意味があると思う。

また、「顧客満足すなわち社員満足」…社員が会社に対して高い帰属心を持ち、「この仕事が好き」「仕事に生き甲斐、やり甲斐、働き甲斐」をもって、澁刺と仕事をすることが顧客満足につながる。

「終身雇用制」「年功序列」がコスト面から疑問視され、多様な雇用形態、キャリアアップという美名のもとに、「派遣・請負・期間・契約」など、非正規社員（この言葉自体、非常に寂しい言葉です）が増加した。

今、その派遣社員などの契約破棄、内定取り消しが社会問題になっている。

「終身雇用制」「年功序列」は、コスト面で見ただけではなく、何よりも、「人を大切に経営」という視点で見直すことが必要ではないでしょうか。

企業経営は「数字の世界」です。しかし、「人々の幸せを実現する」（社会の豊かさに貢献する）という基本的な使命があり、早急に、「数字よりも、人間を見据えた経営」に戻らなければならない。

今、まさに、国難とも言える厳しい状況にある。その解決策を政府に求めるだけではいけない。

特に、「雇用問題」こそ、個々の企業が真剣に再考すべきです。

経営では、「モノの計画」「カネの計画」を立てて、苦心を重ねて、「活かす」ことを考え、実践する。

しかし、もっとも重要な経営資源である「ヒト」について、安易に、派遣会社等、外部に委託すること自体に疑問がある。派遣形態等そのものが、人を粗末にする経営に拍車をかけていると言えは過言か？

「人を使うことは苦を使うこと」…採用・雇用に当たっては、企業自らが、真剣に、直接対応し、苦心することが大切です。苦心するからこそ、「人を大切に経営」が分かるようになる。

「子供多く抱えれば慈愛わが子のごとし、成長の後、一人の男にすること主人たる者の役と知るべし」

「商家の主人たる者、他人の子供を抱え使うこと、銘々を男一人に仕上げわたす師匠と心得べき」

「人を使うに、わが心のごとし、わが身を顧みるを要す。慈悲をもととし…」

これは、江戸時代の商家の家訓です。時代を越えて普遍的な人事に関する基本ではないでしょうか？

厳しい経営環境にあつて、何を為すべきか…今こそ、「社会のため」という経営者としての気概をもって、自主・自立・自律精神を高め、大らかに、社内外に経営精神を語ることが大切です。

平穏な時は、社員に任せる経営でも十分に仕事は進む。しかし、困難の時には、経営者自らが、先頭に立って、「強い経営精神」を示さなければならない。

毎年、新春には諸団体で、「交歓会」「互礼会」が開催されます。そこで、「大変な時代になった」「どうすればいいのか」「政府の支援策が必要」など、他人依存的な話題ではなく、経営者としての気概を発露し、公の精神をもって経営にあたる決意を語り合うことが大切だと思います。

今こそ、経営精神が問われている時代です。

今こそ、経営の基本に返ることが求められている時代です。

今こそ、企業が、「国家に対して、社会に対して何を為すべきか」を問われている時代です。



テクノ経営カレッジ（第7期）開講

- 上田勝講師による公開講座です。この機会に是非ご参加ください。
- 各コースとも3回連続講座（時間はいずれも10時～16時30分）
- 参加料は、3回分の教材・読本・昼食・消費税等を含みます。
- 会場は両コースとも、大阪産業創造館（〒541-0053 大阪市中央区本町1-4-5）です。

「管理者コース」 参加費40,000円／一人
● 第1回：平成21年4月16日（木） ● 第2回：5月19日（火） ● 第3回：6月18日（木）

「中堅社員コース」 参加費35,000円／一人
● 第1回：平成21年4月21日（火） ● 第2回：5月21日（木） ● 第3回：6月25日（木）



PROFILE

テクノ経営総合研究所 TECコンサルタント

上田 勝 うえだ まさる

松下電器出身、営業本部および本社経営監査部等を経て、松下流通研修所、販売研修所 取締役所長を歴任
NPO兵庫経営塾 副理事長